

技術開発事例

産地技術開発支援活動 「黒釉陶器の開発支援」

【相手先企業】 陶芸工房スワ，楽只窯，中野陶房，トライポッド・デザイン株式会社

【開発の背景】

黒釉は笠間焼の伝統的な釉の一つで，現在も多く使用されています。当指導所では，鉄分を含んだ黒色の顔料を用いた黒釉を定番釉の一つとして使用してきました。今回は顔料を使用しない新たな黒釉を開発することを目指しました。

【開発の経緯・支援内容】

陶器に漆で加飾したものを陶胎漆器といいますが，この表面の質感を黒釉で表現することができれば，笠間焼業界の新たな製品展開が期待できると考えました。そこで，表面に光沢のある透明釉と艶消しのマット釉を得るための原料配合比や焼成条件等の検討と，生産現場において配合調整を行う際の基礎とするための着色補助剤（酸化コバルト等）の検討も行いました。

表 1 開発した黒釉の原料配合例（単位：％）

	福島長石白	ネミ石灰	炭酸バリウム	蛙目粘土	珪石	弁柄	酸化コバルト
透明釉	19.9	9.9	8.9	30.9	30.5	6	1.5
マット釉	30	15	10	35	10	6	1.5

【開発した製品の紹介】

原料配合の結果（表 1）を対象企業 3 社に提案し，製品化に向け各工房で試作を開始しました。製品デザインはプロダクトデザイナーである中川聡氏によって行われました（図 1～3）。製品は ICF（International Contemporary Furniture Fair・H23.5.14～17）に出展した他，茨城県陶芸美術館におけるいばらきデザインフェア（H23.10.23～30）に特別展示されました。今後，開発した釉薬とデザイン（形状）との相性等も考慮しながら，製品開発の支援を継続していく予定です。



図 1 中野陶房「巣」



図 2 楽只窯「木幹」



図 3 陶芸工房スワ「水たまり」

製品名：「巣」「木幹」「水たまり」

価 格：受注生産のため応談（参考出展価格：850,000～1,275,000 円）

問合せ：トライポッド・デザイン株式会社（TEL：03-3239-5951）

基礎となった事業 平成 23 年度 技術相談

現在の担当部門 材料技術部門 部 門 長 仁平 敬治 TEL：0296-72-0316
主 任 吉田 博和
嘱 託 砂山 ちひろ